

生石地区タウンミーティング(要約)

テーマ：生石地区のまちづくりについて

平成29年11月22日（水曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は、平日の夜ということで、お仕事やご家庭のことなどいろいろとお忙しかったのではないかと思います。このようにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。この生石地区のタウンミーティングの開催にあたりまして、生石地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様方には、お力添えをいただきました。本当にありがとうございます。松山市のタウンミーティングは、私が市長に就任させていただいた当初から開催しています。松山市は、旧松山市・旧北条市・旧中島町を合わせて41地区に分かれます。どちらが楽かという市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽なのでしょうが、本当にそれでいいのでしょうか。私たちのほうから地域の皆さんのところへ出向いて、皆さんのご意見を聞かせていただこうと、このタウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年、48カ月です。松山市内は41地区に分かれますので、1カ月に1地区のペースで回らせていただこうと思っておりましたが、おかげさまで好評になり、1期4年の間に41地区を2巡りさせていただきました。2期目に入らせていただきましたが、地区別タウンミーティングに加えて、世代別と職業別のタウンミーティングを行っています。世代別タウンミーティングでは、人生の先輩方、大学生や専門学校生、高校生、子育て世代の方にお集まりいただき、それぞれの世代の声を聞かせていただいています。職業別タウンミーティングでは、農業に携わる方や商店街組合の方々とタウンミーティングを開催しています。今日の生石地区で、合計105回目のタウンミーティングです。このタウンミーティングは「聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしない」タウンミーティングです。いただいたご意見に、できる限りこの場でお答えいたしますが、財政的によく考えなければならないもの、国や県に関係する案件については、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんから、いったん持ち帰り、検討した結果を1カ月を目途に必ず返事をするのが、このタウンミーティングの特徴です。今日も魅力は伸ばす、課題は減らすタウンミーティングをさせていただき、皆さんと有意義な意見交換をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。前に6人の部長、副部長、課長が並んでいます。それぞれの担当を紹介しますと、皆さんも質問しやすくなるのではないかと思いますので、自己紹介します。

【市民部長】 皆さん、こんばんは。市民部長の唐崎です。タウンミーティングを所管しています。市民部では、タウンミーティング以外に、まちづくり協議会などを所管している市民参画まちづくり課、人権啓発課、市民相談課、市民課、支所を担当しています。どうぞよろしくお願ひします。

【都市・交通計画課長】 皆さん、こんばんは。都市・交通計画課長の石井と申します。

都市・交通計画課が属している都市整備部では、道路整備や公園整備、それらの維持管理、道路計画、市営住宅の維持管理等をしています。今日ご質問がございましたら、できる限りの回答をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【地域経済課長】 こんばんは。地域経済課長の宇野と申します。地域経済課が属する産業経済部は、第一次産業から第三次産業まで産業の振興を行うことによって、地域経済や産業を活性化する業務を行っています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】 こんばんは。保健福祉部副部長の石丸です。私どもは、国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療制度、高齢者や障がい者の福祉、生活保護、保育園、子育て支援、保健所を所管しています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さん、こんばんは。教育委員会事務局次長の家串と申します。教育委員会では、大きく申しますと、学校教育、社会教育の分野を所管しています。一生懸命回答させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【消防局総務課長】 皆さん、こんばんは。消防局総務課長の金澤と申します。消防局では、火災や救急救助をはじめとした消防活動はもとより、消防団や自主防災組織、女性防火クラブ、幼年・少年消防クラブといった各種団体の担当をさせていただいています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 あまり前置きが長くなってはいけませんが、これまでの生石地区のタウンミーティングでいただいたご意見に対する取り組み状況について、代表的な事例をご紹介します。まず、一つ目です。平成24年2月10日開催の1巡目タウンミーティングで、「小中学校を災害時の避難者の受け入れ施設として整備してほしい」というご意見をいただきました。市内の小中学校の体育館は、私が市長に就任する前の平成20年度に耐震化を全て完了していました。校舎の耐震化工事についても、有効的な公共工事だということで、当初の計画から5年前倒しして進め、平成28年9月に全工事が完了しました。また、災害時に活用できるリヤカーや発電機、投光器、簡易トイレ、パーソナルテントなどの資機材を、平成25年からの2年間で全ての小中学校に配備しました。次に、同じく1巡目タウンミーティングでは、「小学校で自転車教室をしているが、子どもたちはルールを覚えていない」というご意見をいただきました。平成24年度から、各小学校で自転車の交通ルールに関するテストを受講した3年生以上の児童に、自転車免許証を交付しています。なぜ1年生からじゃないのかと思われるかもしれませんが、人によって違いますけれども、大体小学校3年生ぐらいから本格的に自転車に乗り始めるということで、小学3年生以上にしています。この自転車免許証は、警察のイベントで子どもが免許証をもらうととても楽しそうな顔をしていたのが考えの発端です。まずは、ブルーの免許証を渡して、その裏には守ってほしい自転車のマナーを書いています。学科だけではなく、外の実技を受けてもらったなら金色のシールを貼ってゴールドカードにします。これを渡しただけでは2週間ぐらいで忘れられてしまいそうですが、そうならないために、例えば、自転車免許証を市有施設のアクアパレットのプールで掲示し

でもらうと2時間まで無料で利用できるようにしています。そうすると捨てられないですよ。次に、平成25年11月30日開催の2巡目タウンミーティングでは、「交通事故の防止や防犯対策のために、街灯を増やしてLED化を進めてほしい」というご意見をいただきました。松山市内には、防犯灯がいくらぐらいあるかご存知ですか。松山市内の防犯灯は約3万灯あります。松山市役所だけで管理をしようとする、「あそこの防犯灯の球が切れていた」となっても対応が遅れます。地元の方々が管理していただいたほうが早く対処できます。すべてを一斉にLED化すると、多額の費用がかかりますので、平成24年度から防犯灯の新規設置分についてLED化しています。LEDは明るく、電気代も節約できます。照度基準を下回る器具の取り替え分については、平成26年度からLED化に対する費用の助成を開始しました。生石地区では、平成25年度以降、LEDの防犯灯を新たに30カ所で設置し、79カ所で蛍光管からLEDの防犯灯に取り換えました。LED化により、環境への配慮にあわせて、電気料金が削減され、町内会の負担も軽減されています。1巡目、2巡目の生石地区のタウンミーティングでいただいたご意見に対して、代表的な例を紹介させていただきました。これで私の冒頭のあいさつを終わらせていただきますが、課題を解決するためには三つの柱があると思います。一つ目は「行政がやるべきこと」、二つ目は「地域の皆さんでできること」、三つ目は「地域の皆さんと私たち行政で力を合わせてできること」があると思います。今日は有意義な意見交換ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 市長さん、こんばんは。日ごろから生石まちづくり協議会に多大なるご支援とご協力をいただいていますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。時間の都合上、私は質問をせず、皆さんにさせていただくつもりでいましたが、今朝、生石小学校の校長先生から、子どもたちの通学路が大変なことになっているということをお聞きしました。校長先生にマイクをお譲りして、校長先生からお話させていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【男性】 こんばんは。生石小学校の937名の子どもたちは地域に守られて、幸せです。そして、小学校に勤めさせていただいている私たち教職員55名も、幸せに感じています。感謝しかございませんが、今、心配なことが一つ起きています。先ほど申しました937名の児童のうち、381名が毎日通学路として通っています旧空港通りにかかる湯の口歩道橋があります。そこがだいぶ傷んでいて、改修工事されるようになったことは大変うれしいのですが、約1カ月半、通れなくなります。そのため、毎日通っている381名の子どもたちをどのように安全に通学させるか、学校と関係者で協議した結果、今の歩道橋の下を通るのが一番いいだろうということになりました。仮の横断歩道を設置してはどうかと警察にもお願いしましたが、残念ながらそれは無理なことではありましたが、今の歩道橋の下を通ってもいいということでした。また、歩道橋の東西に信号機付きの横断歩道がありますが、500メートルの迂回（うかい）になっ

てしまいます。小学3年生以上なら問題ないのですが、これから寒くなり、今日のように雨が降ったりする中、1年生や2年生に朝の時間帯に500メートルも迂回(うかい)させるのはどうかと思います。しかも、危険なところもありますので、慣れていない1、2年生は大変心配です。そのような中で、苦渋の案ですが、歩道橋の下を通らせていただこうと思っています。お試しということで、11月28日火曜日から12月1日金曜日までの4日間通ってみて、様子を見て問題があれば、次の手を考えるということになり、県の道路維持課と市の教育委員会と皆さんとで話し合っているところです。とにかく、子どもたち381名の尊い命を守り切らないといけないと思っています。

【生涯学習政策課長】 私どもも、通学路の関係ですので非常に心配していて、おっしゃるとおり、この道は松山空港線という県道で、県が改修工事をする予定になっています。本格的な工事の実施が、12月4日から1月31日までの間で、概ね2カ月にわたるものですから、安全面について県の考えを聞きました。おっしゃるように、歩道橋の西側の部分を横断してもらうように考えているとのことでした。小学生の登下校がある日については、朝7時から夜6時まで、ガードマンを2人配置するということでした。県も愛媛県警に臨時の横断歩道の設置を申し出たようですが、これについてはかなわなかったということでした。ただ、愛媛県警も、優先して警備にあたると言っていただいているようです。2カ月という期間ですが、私どもも安全に登校できるように願っています。

【市長】 お気持ちよくわかります。5年生や6年生なら大丈夫かもしれないですけど、1年生や2年生は心配です。今日のように雨の日もありますし、雪の日や風の強い日もあるかもしれません。大人たちが何とか知恵を出すことで、500メートルも迂回(うかい)しなくてよくなり、よかったですと思います。昔だと「県の話なので県に言ってください」となったりもしていたようですが、今は県も市も一緒ですから。皆さん、どこが国道で、どこが県道で、どこが市道かわからないですよ。国道も11号や33号や56号ならともかく、437号のような大きな数字のものもあります。今は市に言っていただいたら、国や県につながることができます。とてもよく覚えていることがありますが、小野3号線という奥道後の下から小野まで道が抜けて、車の交通量が増え、危なくなったところに、湯山地区でタウンミーティングがありました。現場の県道を見に行くと、草が生えていて、その草を避けるように自転車が車道にはみ出して走っている危ない状況でしたので、愛媛県に連絡したら、すぐに対応してくれました。他にも、石手川沿いの細い道を通って高校生たちは松山市内に向かいますが、大きな道の交通量が増えたことで、その細い道に車が入り込んでいくようになっていたんです。愛媛県警も既に考えてくれていて、早期に右折信号をつくってくれました。今はそうやって県や警察との連携も取れますので、皆さん、お気づきのことがありましたら、遠慮なく言ってください。できる限りの対応をさせていただきます。

【男性】 私は、お褒めしたいことがあります。公園の出入口付近に直径10センチで深さ5センチの穴があきました。私に連絡がきたのが朝の10時半くらいでした。そして、11時に支所に行きました。そうしたら、15時には直してくれました。子どもたちが帰る時間までに直ってうれしかったです。これからもこの調子でやってください。

【市長】 ありがとうございます。皆さんも、お気づきになっていると思いますが、松山市には黄色い道路パトロールカーが走っています。松山市道だけで、約1800キロありますから、3台の道路パトロールカーで回っていますが、さすがに回りきれません。皆さんから「ここ、でこぼこしているよ」とか「ここ、穴ができとるよ」とか教えていただいたら、できるだけ早く対応するようにしますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 まちづくり協議会副会長をしています。安全安心なまちづくりには、やはり安定した上水道というのが重要だと思うんです。平成6年に渇水があり、今、新しい水源地、西条分水、あるいは海水の淡水化とか検討されていますけれど、まだ決定はされていないと思うんです。私が思うのは、工業用水の上水道への転用です。西部地区にある三菱化学や帝人の重化学工業は、ほとんど休止しています。工業用水は契約を見れば、三菱化学さんは2万トン/日で、帝人9万トン/日。それに帝人さんは6万トン/日の県営の工業用水も契約されています。三菱化学さんはほとんど休止で、帝人さんも半分以上休止されています。もう一つ言いたいのは、工業用水はほとんど冷却水に使われているんです。冷却水は、昔は一方通行で、一度冷却したら海へ放流していましたが、今は、一度冷やしたら、クーリングタワーで冷却して、それを循環使用しています。だから昔から比べると補給水だけですから、10分の1とかそれくらいの量で賄えると思うんです。平成6年に渇水が起こったあと、福岡市は3、4年のうちに淡水化しています。いろいろな考え方があると思いますが、西条分水と海水の淡水化の二つのほかに、もう一つ、工業用水の転用ということも検討項目に加えていただいたら、これが一番安くてたぶん早いと思います。上水道、工業用水とも、松山市の管理です。そうすると、たぶん市長の一言で終わりじゃないかなと思います。検討をよろしくお願いします。

【市長】 お詳しいなと思いました。端的に申しますと、検討はしています。皆さん方も覚えていらっしゃる方も多いと思いますけれども、平成6年、水が出ないものですから、お店では紙コップ、紙皿を使っていました。その紙皿を使うのももったいないですから、その上にラップを巻いて、出しているような状況でした。そういう街には旅行者の方も来ないですよ。そういったこともあって、考え得る19の方策を考えて、これは行政だけではなく、市議会でも慎重にご審議をいただいて、その中でも安定性やコスト面から考えて、海水を淡水化する、または黒瀬ダムからの分水というこの二つに絞ってやってきました。工業用水の転用についても19の方策の一つとして検討しましたが、給水の実績からみて、渇水時には上水道に転用できる余水がないため、採用することが

できませんでした。もう少し詳しく言いますと、近年、工場側は経営計画の見直しなどによって一部水の量を見直す動きがありますが、工業用の水道の水源というのは重信川流域で上水道の水源と近いところにあります。近接して存在していますので、渇水時には上水道と同様に安定して水をとることができません。企業さんと契約している水量の半分の水の量でさえ給水が難しくなる状況なんです。平成6年の渇水時には、契約水量の90%をカットしました。水源が近いところにあるので、上水道の水源となりえないということから、採用することはできなかったということになります。今年、松山市は二度、渇水のリスクがありました。私としては水のリスクはできるだけ早く解決したいと思っています。そして、皆さんご存知のように私は一市民出身でこの仕事をさせていただいていますので、もちろんコストのことは考えます。できるだけ安く、皆さんに負担がないように考え、できるだけ早くしたいという思いでやっていますので、実際に検討していますが、なかなか採用できないというのをご理解いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 私は生石校区の自主防災組織連合会の代表防災士をしていますので、今日は防災の観点からお願いや意見を述べさせていただきます。たくさんあって、危機管理課のほうにメールもしたりしていますが、その中でも特に言いたいことを二つ質問します。一つは、ローリングストックデーを松山市全市でやってはどうかということです。例えば、月に一回、スーパーとかコンビニで水や非常食の5%の割引の日を設けて、全市でやるというようなことはどうでしょうか。もう一つは、自主防災会にタブレット端末を配布してほしいことです。災害が起きれば、情報のやりとりが非常に重要なことは皆さんご存知だと思いますけれども、そのために市の対策本部とか自主防災会とか、避難所の情報のやりとりにタブレット端末を使うということです。タブレット端末であれば、情報のやりとりだけではなく、例えば被災の状況をカメラで撮って一緒に送るとか、たくさん使い方もありますので、ぜひ自主防災会にタブレット端末の配布を検討いただくようにお願いします。

【市長】 お詳しいなと思いました。皆さん、ローリングストック法をご存知でしょうか。例えば、レトルトのカレーなどを思い浮かべていただいたらと思います。比較的保存期間が長いですね。こういった食品を多少多めに買い置きをしておいて、期限が近づいたら消費をし、新しいものを補充していただく、これがローリングストック法というものです。実際に非常食の活用としてあるやり方です。今、聞かせていただいて、いきなり市全体とするのはなかなか難しいところがあるかと思います。やり方として、子ども目線の交通安全マップづくりをしたときもそうでしたが、モデル地区をつくって、そのやり方ができたら全市に広げていくやり方もあります。よろしければ、生石地区の防災会が率先してやっていただいて、いい事例ができれば、市全体に広げていくやり方がいいのではないかと思います。タブレット端末については、お願いします。

【消防局総務課長】 タブレット端末の自主防災会への配備ということでご質問いただきました。自主防災組織とは、ご存じのとおり、自らが考えて自らが行動するという自主性と積極性を持った団体です。松山市ではこうした団体に対して、一定の補助制度を設けて、各地域で整備に取り組んでいただいています。生石地区はすでに地区の防災計画をご提出いただいて、今、修正中だと思いましたが、平成29年度は、その作成の経費に対して一律で、41地区で205万円、上限が5万円ということになります。各種資機材の整備、その他ソフトにも使えるように「そなえる補助金」という基礎支援金が上限10万円で、41地区すべてで410万円、それと「そなえる補助金」のモデル事業として100%の補助があります。基礎支援金については補助率は3分の2です。地域での活動経費として725万円を松山市から補助させていただいています。また、防災士の養成や大学生などを育成していくために必要な経費で、自主防災に関連する事業として合計約1,800万円を年間に出ささせていただいています。「そなえる補助金」については、各地域でハード・ソフト両面に自由に使えますので、ご検討いただきながら、タブレットの配備にも活用いただければと思います。松山市全域では754の自主防災会があり、すべてにタブレットを配布するとすると、経費的な面が一番かかると思いますが、配備することは難しいかと思いますが、今申しました補助金の活用を視野に入れていただきながら、各地区でご検討をいただければと思います。また、先ほどの情報の共有という点では、市内に防災行政無線というものがあり、この防災行政無線は各地域の避難所にも入っていて、双方向の通信が可能となっていますので、ぜひこちらもご活用いただければと思います。

【市長】 財政のことについて触れると皆さんから手が挙がりにくくなるので、少し申しわけないと思いますが、皆さんは遠慮なく手を挙げていただいたらと思います。皆さんも国が1,000兆円を超える借金を抱えていることはお聞きだと思います。松山市のこの仕事をさせていただいて7年になりますが、仕送りと似たところがありまして、地方には地方交付税交付金とか国庫支出金という形でお金が回ってきますが、国が大きな借金を抱えていると、地方に回ってくるお金が増えるとは考えにくいですね。財政については、かなり厳しく見ていかなければならない状況です。そして、少子高齢化といいますが、子ども数は少なくなっていて、つまり働いて税金を納めてくれる人たちの数は少なくなっています。私は今年50歳になりましたけれども、高齢の方が増えて、お世話になる人は増えています。働いて税金を納めてくれている人は少なくなっているのです。ますます厳しくなる財源の中でやっていけないといけません。年々高齢化していますので、医療費などの福祉に使うお金は増えています。決まったお財布の中でやっているのです、どこかが膨れると、どこかを節約しないと行けません。節約しないで、私たちの時代だけよかったらいいと言って借金をすると、その借金は誰が面倒を見るかということ、子どもと孫になるんです。この仕事をさせていただいていますが、皆さんに聞き心地のいいことだけは言えないんです。できれば教育や福祉

などにも充てていきたいので、節約できるところは節約したいんです。例えば、携帯など、皆さんがお持ちのもので利用できるものは、使わせていただきたいです。携帯も防災のメールとか、緊急地震速報とか、いろいろ情報が入ってきますよね。節約できるところは節約して、本来充てていくべき教育とか福祉とか、投資的な予算に充てていきたいと思っていますので、ご了承のほどよろしくお願いします。

【女性】 初めて参加させていただきました。市長さん、2期目に当選されたときに、ケーブルテレビのある番組で、松山市にもコミュニティバスを走らせたいとおっしゃいました。私はすごくうれしかったので覚えています、それがいつごろ実現するのかなと心待ちにしています。私には80歳になる姉が広島にいて、その姉が住んでいるまちにお出かけ号というコミュニティバスが走っているようです。それまでは、電話がかかってきたら、あっちが悪い、こっちが悪いと、あまりいい話ではなかったのが、バスが走るようになってからは、自分で病院にも行き、買い物にも行き、公民館の健康増進センターで今日は体操をしてきたとか、そういう明るい話がいっぱいになりました。お友達ともバス停で出会った、こんな話をしたと。姉が生き生きとしてきたので、松山市にもそういったものがあればいいなと思っていますし、実際に10年後ぐらいには私もその年齢になります。車の運転免許も持っていませんし、南吉田地区は、空港からの路線バスとかありますけれども、それはまちの中心へ行くバスであって、私たちの行きたいところへ直接行くバスではありません。この西地区では、余戸、垣生のあたりに新しい病院も増え、スーパーも増えましたが、そこへ南吉田から行く公共交通機関はありませんので、自転車にも乗れなくなったら、どうやって行けばいいのか。タクシーに乗るというのもありますけれども、年をとって年金暮らしになったら毎回タクシーというのも考えものです。姉が広島県の熊野町に住んでいるんですけども、その姉の話を聞いてうらやましいなとずっと思っています。よろしくお願いします。

【都市・交通計画課長】 コミュニティバスは外出機会の向上とか、全国的に効果があるといわれています。ただ、なかなか現状のバス路線でも乗ってくださる方が少なく、市としてもこの路線維持のために、事業者さんにある程度の補助を出したりして何とか維持をしている状況です。それから、ニーズ調査や事業者さんと話をして、どういう交通形態だったら乗っていただけるのかという検討はしています。それから、何年か前に道路運送法が変わりまして、例えば山間部でバスを走らせることが現実的ではない場合ですと、周辺の方が有償で近所の方を合法的に乗せて行ける、昔でいう白タクの合法版のようなものがあったり、乗り合いタクシーを運行したりする手段もありますので、それを全市的に検討している最中です。もう一つ、バス事業者の課題として、運転手さんがなかなか集まらないという事業者さん側のことも問題になっています。あとは、公共交通に乗っていただくことが一番です。例えば、町内会から1,000人の署名をいただいて乗りますというけれど、実際に開けてみたら20人くらいしか乗っていないとい

うことがあるので、既存のバス路線も含めて、公共交通を週に一回でも使っていただけると、そういう芽がさらに広がると思いますので、よろしくをお願いします。

【市長】 お年寄りの方やお体が悪くなった方の移動手段については、何とかしたいと思っています。興居島では、過疎地有償運送という形ができました。島民の方が車を運転してくれて、500円で乗れます。皆さんにもお願いですが、バス路線の本数が少ないとか、ダイヤが悪いからということで、ますますバスに乗る方が少なくなり、バス路線がなくなってしまう、そうなる则復活が難しいです。バス会社さんと市と地域住民の三者で協議会をつくって、できるだけバス路線を維持するような取り組みをしています。先ほど申し上げたように、民間ですので、乗っていただく人がいないとバス路線はなくなっていくこととなりますので、公共交通をご利用いただければと思います。免許返納ということも実際に出てきていますので、できる限り、皆さんの足は守っていききたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【男性】 私は、生石地区まちづくり協議会環境部長を務めています。今日は大変お忙しい中、住民と直接話す時間をいただき、本当にありがとうございます。えひめ国体、えひめ大会が大盛況のうちに無事に閉幕しました。私はこの大会のキーワードは、笑顔とおもてなしだと思っています。松山空港で両陛下をお迎えする際の市長の笑顔を見たときに、この大会の半分は成功したなと思っていた次第です。私どもも花のおもてなしということで、空港の玄関、道路を挟んだ向かい側にサルビアの花を200鉢あまり置かせていただき、小さいながらも協力をさせてもらった次第です。私は、今回のタウンミーティングの参加申込書に、「住みよいまち日本一を目指して」というタイトルを付けて申込みをさせていただきました。たまたま、本日の愛媛新聞の記事に、日経BP社による「シティブランド・ランキングー住みよいまち2017ー」という記事が載っていました。中四国で松山市がナンバーワンでした。おめでとうございます。ただ、全国では32位という報道でした。安全安心、快適な暮らし、生活の利便性等々8分野で採点をされ、中四国の2位が広島市、3位が松江市と丸亀市という記事でした。総合1位は、茨城県守谷市、東京都武蔵野市、福岡県大野城市でした。ぜひ、松山市も来年は日本一を目指していただきたいと思っています。そのような中で、住みよいまち日本一を目指してということで少しお話をさせてもらえたらと思います。まず一つは、住民の方からの話では、「1坪の農地で今日食べる野菜を一生懸命作っているんだけど、種をまいたら、野良猫が来て種をほじくり返してしまい、困っている」と。イノシシ同様、猫の被害で捕獲の箱を買ったという人もいます。この害について一つ考えていただきたいと思いません。もう1点、小さな河川や水田には、ジャンボタニシといってピンクの卵を産みつけて、どんどん繁殖するタニシをよく見かけます。聞くところによると、輸入をして繁殖をしようと試みたが失敗したという話も聞いています。私の小さいころは、田んぼに日本古来のタニシがいて、そのタニシを湯がいて食べたような記憶もあります。今、外来

生物が、川の中あるいはのり面、田んぼの中に多く見られるわけです。これらについて市はどのようにお考えなのか、ご回答いただきたいと思っています。

【保健福祉政策課長】 まず、飼い主不明の猫、それから屋外で飼育している飼い猫のいたずらにつきましては、農作物への被害をはじめ、多くの通報をいただいています。その対応にも苦慮しているところです。飼い主の方だけではなく、野良猫に餌をやる方がいて、その猫のいたずら行為によって損害を負うということも発生して、多くの裁判等も実際に行われています。そういったことを未然に防ぐことができると考えています。そのためには、猫を飼う場合には、できるだけ屋内で飼育、屋外で飼育する場合には、決まった場所で排便、排尿するようにトイレのしつけを十分にさせていただくこと、それから、頭数を増やさないために不妊、去勢手術を行うことが大事だと思っています。特に、野良猫に対して、むやみに餌を与えないことを啓発させていただいています。ただ、そういうことをした上でも被害は起こっていますので、これを未然に防ぐためには、猫被害軽減器という超音波によるネコよけ器の貸し出しを行っています。これが好評をいただいている、今後も増やしていく予定ですが、そういった利用もできますので、ご相談いただければと思っています。

【市長】 生活衛生課が担当です。超音波式ネコよけ器、猫被害軽減器です。それでは、ジャンボタニシについてお願いします。

【地域経済課長】 ジャンボタニシについて調べてみると、1980年ぐらいに台湾のほうから食用で持ち込まれたのが起源といわれています。ただ、人体に少し害があるようで、今のところ食用としては向かないようです。ジャンボタニシの被害は、西日本が中心になっていて、先ほどおっしゃったような水田や河川で広がって、完全な駆除は難しい状況だそうです。このジャンボタニシの被害の軽減対策として三つあります。まずは、それぞれの段階に応じて薬剤を散布することであったり、ピンク色の卵を見つけて粉碎するとか貝自体を殺してしまうこと、三つ目としては、冬の間には田を耕して、貝を寒風にさらしておけば死滅するということがありますので、検討されてはいかかかと思えます。そのような中で、松山市には農業指導センターがあって、季節に合った防除方法であったり、どのように薬剤を散布したらいいかなどを指導したりしているので、何か具体的にお困りのことがあれば、個別にご相談いただければ対応させていただいています。

【市長】 松山市には、北梅本に農業指導センターがあります。また、近くの農協さんでも、営農指導や会報誌などで、駆除に関する呼びかけも行っているようですので、農協さんに相談していただくのも方法かと思えます。

【男性】 生石地区で保育士をしています。本日はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。世の中では、待機児童の問題が取り上げられていますが、先ほど市長から、教育、福祉に力を入れていくというお話もありましたので、1点お聞きしたいです。待機児童を今後解消させていく方向で動いていくとは思いますが、実際に現

場で働いていると、育休明けで子どもを預ける先はあったけれども、子どもが体調を崩す日が続くと、なかなか預け先もない、手伝ってくれる家族もないと聞きます。今、松山市で行っている病児保育の預かり先がいっぱい断られてしまうことが相談として挙げられますが、やはり働く保護者を支える身としては、待機児童の解消もそうですし、入ったあとのアフターフォローは、園ができることと、市で対応できることは、この先どのような展望があるのかをお聞きしたいと思います。相談内容としては、雇用形態を切り替えざるをえない、育休明けに正規雇用で働いたけれども、お休みを長く取らなければならないという現状があることを踏まえて教えていただければと思います。

【保健福祉政策課長】 病児保育事業については、年々ニーズが高まっています。利用者の方も増えていて、事業のさらなる拡充は必要と考えています。平成28年11月から、中予3市3町の連携協定に基づき、東温市や松前町の施設も利用可能になっています。また、平成28年12月から、石丸小児科と天山病院の2施設で、児童が保育園等で体調不良になったとき、保護者が仕事の都合で迎えに行けない場合に、病院から看護師が迎えに行く送迎も始めています。さらに、今年度、1施設については、利用定員を増やすための増設を行っているところです。ただ、定員に限りがありますので、なかなかお応えできていない現状があります。今後は、松山市の医師会等を通じて、協議を行い、できる限り取り組んでいきたいと思っておりますが、小児科医自体が少なくなっている現状もありますので、ご理解いただければと思います。

【男性】 私は、生石地区まちづくり協議会事務局長をしています。まちづくり協議会に、できるだけ若い世代を取り込みたいと考えています。定年が60歳とか65歳とか、自民党としては人生100年時代戦略本部とかいうことで、元気なお年寄りはいつまでも働くような形で、なんとか若い人たちを取り込みたいと思うのですが、ままならないです。そういう状況は、他の団体も一緒だと思いますので、何とか自分たちで解決したいと思います。以前、松山市職員の有志の方がボランティア活動支援に登録していると聞いたことがあります。当該地域に住む市職員の方々が得意分野を生かしたボランティアスタッフ等として、勤務時間外に支援していただけないかお伺いします。

【市民部長】 松山市では、まち協サポーター制度を設けています。これは、職員が勤務時間外の空いた時間に、まちづくり協議会の会議や行事に参加したり、お手伝いしたりするものです。どのようなことをその地区の方々がご希望になるかということをも具体的にお話しいただきましたら、職員を派遣することもできますので、ぜひ市民参画まちづくり課にご相談をいただけたらと思います。私どもの信念として、市の職員は、県庁職員や国の職員と違い、直接市民とつながっている立場ですので、地域と市役所のつながりをするのは当然の仕事だと考えています。なかなか強制は難しいところはあるけれども、職員も地域の一員ですので、お気軽にお声がけいただきたいと思います。

【市長】 先ほど市民部長から申しあげましたように、皆さんは、国の役所に行くこと

はあまりないと思います。県庁だともう少しあるかなと思いますが、支所も含めて市役所が一番多いと思います。今、市役所の中でよく言っているのは、できるだけ市民の皆さんの声に寄り添ってくださいということです。我々が、市民の皆さんとの距離の近さを手放してしまったら、市役所の存在意義はないんです。市役所というのは、市民の皆さんの役に立つところで市役所でなければなりません。ですので、先ほどのように「こんなこと市役所できんかな」と言っていたら、「こういうやり方があります」とか「このやり方はちょっとないんですけど、こっちのやり方ならあります」とか、情報提供をすることもできますので、遠慮なく言っていたらと思います。「どうせ市役所に言ったって一緒よ」なんて思わないで、松山市役所には、市長へのわがまちメールという市長に直接メールが入ってくる制度がありますので、もし気になる点がありましたら、私に直接、メールでいただいても結構ですので、よろしくお願いします。

【男性】 私は、生石地区の自主防災組織の顧問で民生委員をしています。一般の災害対策基本法に基づく防災の訓練等をやっていますが、その際に、避難所指定の小学校や中学校、保育園、公民館とありますけれども、支所の役割は何だろうと思っています。それと、これから将来的に国民保護法に対する防災、これらの際の支所の役割はどうなるんだろうかという観点で、できれば支所を防災の拠点ならぬ地域の情報の拠点になるように施設の充実強化、人員の協力支援などを検討していただければと思います。

【市民部長】 生石支所で申しますと、支所長含め正職員4名、臨時職員2名で組織しています。窓口担当の職員は、支所では本庁と同じ種類の業務をしていますので、なかなか昼間の通常業務中に、地域と関わるのは難しいところがありますが、支所長は、地域に入って、地域のまちづくりに関わるのは当然の仕事です。ですので、実際に支所長は、地域のまちづくりの会議等にも参加していますし、防災訓練等にも参加しています。支所として、防災も含めて関わっていくのは当然のことですので、何なりと言っていたらと思います。拠点にすることにつきましては、防災の担当からお答えさせていただきます。

【消防局総務課長】 防災の拠点として支所を使うことができないかというご意見についてお答えします。消防局では、災害時に、火災救急救助の現場対応をさせていただいていますが、それとは別に、災害時にも初動活動を行い、その拠点として、消防署、消防団のポンプ蔵置所が活動拠点になりえます。先ほどご質問されたのは、おそらく避難所の運営に関することだと思いますが、避難所運営については、施設管理者が施設の安全を確認したうえで、避難の受け入れをできる状態にします。防災行政無線で、どこの避難所に避難してくださいという放送がありますが、その際には、消防や市の災害対策本部要員の一人として支所の職員が一緒になって活動を行うことになっていますので、決して職員が何もしないわけではありません。一緒になって防災に携わっていきます。

【男性】 こんばんは。市長さん、部長さん、課長さん、本当にお忙しい中、参加いただき、ありがとうございます。私は桃山町内の自主防災会の副会長をしています。本題に入る前に今回の72回えひめ国体、本当に大盛況でおめでとうございます。私も8会場を回りました。座れないところもたくさんあり、立ち見をしたような状態でした。また、北条の鯛飯や鬼北町のきじの串焼きなど、おせったいをいただき、本当に楽しかったです。私も9月8日から11日、愛媛県代表として第30回ねりんピックのペタンク大会に参加させていただきました。秋田県潟上市に行きましたが、おせったいでうどんとか地域の特産品をいただき、心安らぎ楽しい気持ちで試合をすることができて、本当によかったと思います。これからもこういう機会があったら、ぜひ市長さん、おせったいのほどよろしくお願いします。さて、本題に入りたいと思いますが、桃山町は終戦後、今からちょうど70年前にできた町です。私も50年前にこの地に土地を購入しました。この50年間一度も川の氾濫はなく、安心安全な町内でしたが、平成25年に高岡団地地域の防災対策工事が完了し、その後遺症で桃山町内東側の氾濫の原因となっています。平成27年に2回、この川が大雨で氾濫し、床下浸水4件、床上浸水1件の被害が発生しました。また、今年9月17日の台風18号で約48ミリの雨だったそうですが、3回目の氾濫が起これ、護岸より約30センチもオーバーして水が溢れ出ていました。本当に恐ろしい感じを受けました。平成25年以前の高岡団地の被害状況を見れば、川上の工事をすれば、当然、川下がどうなるかというのは小学生でもわかると思います。川下のことを何も考えていただいてなかったことが、非常に私は残念に思っています。現在、12月より水面を9センチ下げる工事をすると言っていますが、9月17日の氾濫では30センチをオーバーしていますので、50センチは川底を掘り下げる必要があると考えます。入札も済み、12月から工事に入ると聞きましたが、もう一度、松山市で氾濫の対策を真剣に検討していただきたいと思います。まず一つの対策としては、桃山町の排水管は勾配が約70センチで、低いんです。それで、排水口は桃山町の南側にある排水管の出口が川の底にあります。川に水が増加すると逆流し、十分な排水の役目をしていません。排水溝を堂之元川に直接出るようにお願いしたいです。特に今度の外環状道路ができるときには、排水管が堂之元川に直接流れるように工事を進めてほしいと思います。もう一つ、東側の川には約100メートルの間に7本の橋があるんです。その橋がすべて土手より下に、20センチ掘り下げて道路の下になっているわけです。それで、水が橋に当たって溢れるわけなんです。松山市として、これから橋をつくる場合は、せめて土手よりは10センチ以上上げて橋をつくるように指導をお願いしたいと思います。

【下水道政策課長】 下水道政策課長の高木です。下水道部では、皆さんのご家庭で出た下水を処理場で処理してきれいな水にして流す作業と、雨水による浸水から守ることと大きく分けて二つの事業をしています。ご指摘のありました桃山地区の台風18号の溢れた水については、一昨日、担当者が桃山分館でご説明したと思います。高岡団地の

暗渠（あんきょ）工事を平成25年にしたことによる影響ではないかというお話がありました。平成13年の豪雨で時間47ミリという激しい雨が降ったときに、松山市内で重点10地区を設け、高岡地区もその重点10地区の中に入っています。皆さんがよくご存知なところでいうと、ロープウェー街は、昔は水浸しになって、学校に行く学生さんたちが、ひざぐらいまで漬かって学校へ行っていたイメージがあると思いますが、そういった浸水被害を受けて重点10地区を指定しました。高岡地区は、平成17年から順次、工事をしました。そして平成25年に家屋等の補償の関係で、最後のバイパスの処理をさせていただいたことにより、南北の水路の水も若干増えたように感じると思われるかも知れませんが、流量的には25年の工事が影響したわけではございません。一昨日に担当からご説明しましたように、郵便局北にある東西の水路には、北斎院の宮前川から水をくんだ農業用水が流れています。そちらが郵便局の南北線と合流するところで、流れが激しいときに合流するところが溢れるということで、12月からその合流地点の前後50メートルの区間の容量を増やす工事を進めることにしていますので、ご理解いただけたらと思います。それと2点目の外環状道路については、レンゴー松山のところも外環状道路が来るようになっているので、そちらの改修に併せて、桃山地区から南に出て堂之元川につないでいる辺りの水路の改修もさせていただく予定ですので、ご理解いただけたらと思います。

【男性】 まちづくり協議会の環境部に属しています。まちづくり協議会では、垣生山を拠点にいろいろな計画をしています。頂上に登った方は感じますが、360度、本当にすばらしい眺めです。一昨年前から、ふもとに陽光桜などを植えたり、山ツツジを觀賞してもらって設備などを整えたりして、本当にすばらしい里山になっています。まちづくり協議会の中でも垣生山に登ろう会というのを立ち上げて、正月の初日、春の桜、晩秋の夕日など、計画を実施しています。登山道についてお願いですが、高岡側から登っていく登山道は割合急で、陽光桜の看板のある辺りから北吉田に抜ける峠、大体100メートルぐらいだと思いますが、雨が降ると土砂が流れて非常に歩きにくい現状です。それほどお金もかかることではないと思いますので、道幅を広げてコンクリート舗装など、歩きやすいようにしていただくと、ありがたいと思っています。それから、高岡団地のほうから農道を自動車でゆっくり上っていく道がありますが、その道路沿いに最近は大阪、名古屋、神戸、山口、福山ナンバーの自動車が、秋の夕日の撮影をするために垣生山へ上がろうとして違反駐車をしているのを見かけるようになりました。それで、これはお金がかかるとは思いますが、今は竹やぶのところを終着になっていますが、ミカンの木を切ってほったらかしにした畑があるところを、山の中腹辺りまで自動車が行けるようにしていただければ、5～6台は駐車できるようなスペースもあります。地権者とかいろいろ問題があると思いますが、できたら自動車道を延長していただきますと、垣生山の県外その他に対する宣伝にもなりますし、地元民も利用して大いに意

気が上がるのではないかと思います。前向きに検討をしていただければありがたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。垣生山の登山道をコンクリート舗装してくれないかというご意見と、駐車場を整備できないかというご意見です。

【市民部長】 駐車場整備は多額の費用もかかりますし、地権者との問題などいろいろあります。それで、なかなかいいお答えはできませんけれども、生石地区には、まちづくり協議会ができていますし、まちづくり協議会発足当初から垣生山を整備するという独自の取り組みをされています。そのまちづくり協議会で垣生山を整備していこうというのは、自分たちでやろうといういい取り組みだと思っています。行政というのは皆さんご存知のように公平性を求められます。例外を設けるのはなかなかできませんし、各地区にも同じような対応をしないといけないところがあります。そうすることによって無駄も生じますし、市長から話をいたしました、財政的に困難な状況があります。そういう状況がありますので、松山市としては地区住民の意思を集約できるまちづくり協議会に対して交付金をお渡しして、ご自分たちが使いたいことに使える制度を設けています。そこで、交付金を各まちづくり協議会へお渡しすることによって、公平性を保っていますので、ご理解いただきたいと思います。

【市長】 駐車場はどうかというのは、同じようなことになりますか。

【市民部長】 駐車場のほうが費用もかかる上に、地権者との関係とか解決すべき課題が大きいということです。ただ、例えばまちづくり協議会への交付金を使って、土日などに地権者の方にそのときだけ使えるようなことも考えていただいて、まちづくり交付金から謝礼を出すといったことも考えられるんじゃないかと思います。

【市長】 近隣に駐車場をお持ちの会社はないでしょうか。例えばそういったところを貸していただけるんだったら、その謝礼金にするとか、そういうところはないですかね。

【男性】 高岡のほうで、お宮の下に帝人の広い空き地があるんですよ。それを交渉していただけないでしょうか。

【市長】 私たちが交渉するのはルートのほうにはどうなんですか。

【市民部長】 地元の方々の総意として進みたいという意思をお持ちでしたら、まちづくり担当の職員もいますので、一緒に対象のところへ交渉に行くことは十分可能です。

【市長】 地域のことを一番知っているのは地域の方々です。「駐車場として貸してもらえそうなおところがあるんやけれども、どうじゃろか」というアイデアをいただくと、進んでいきやすくなるんじゃないか思います。例えば北条地区や桑原地区で自分たちが誇りにしている山ってあるんですね。例えばA地区で山の土地を買ったら、「何でうちはやってくれないの。何でそこだけやるの」ということになりますので、よく考えてやらなければいけないところがあるのも、ご理解いただければと思います。北海道の夕張市のようにたちまち松山市が倒産をするようなことはありませんが、我々のときに貯金を使ってしまって、将来の子どもたちにつけを残すようなことではいけませんし、引き

締めながら次の世代に受け継いでいかなければならないと思っています。そういう中で、松山市の職員には「知恵と工夫でやれることはあるんじゃないか。知恵と工夫と連携で」と言っているんですが、先ほどのように地域の方々からアイデアをいただけるのも連携です。いろんな課題があるかと思いますが、一つ一つ解決していきたいと思っていますので、「それは市役所やってや」とポンと投げってしまうのではなくて、地元を知っているのは皆さんで、地元の強みも知っているのも皆さんだと思います。逆に課題を知っているのも皆さんだと思いますので、皆さん方と連携をしながら、さまざまな課題を解決していきたいと思っています。8時半になりました。今日は、たくさんの方に集まっただきまして、ありがとうございました。地域によっては開始から1時間ぐらいで意見が出にくくなってしまうところもありますが、生石地区さんは本当に皆さん方が次々に意見を言われました。冒頭に思いましたのは、我々が「こんばんは」と申し上げると、「こんばんは」と返事が返ってくる。子どもたちに「あいさつをしなさい、お返事しなさい」と言っているのに、大人があいさつをしないと子どもはやらないですよ。そういう中で、皆さんからきっちりあいさつをいただいたので、本当に生石地区を頼もしく思いました。重ねてになりますが、皆さんと一緒に魅力は伸ばし、課題は減らしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、今日のタウンミーティングを終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

—了—